

事業のタネシート

活動地域・団体名：一般社団法人全国わくわく課協会

事業名称 1：自慢したくなる商品を開発しよう

あらすじ

東かがわ市は、1次産業、2次産業ともに活発であるものの、身近に購入できる商品が少ない。本事業では、農業・漁業に特化した「自慢したくなる商品」の開発を行っていく。

ストーリー

東かがわ市は、ハマチの養殖発祥の地であり、現在も「引田ぶり」「オーブハマチ」「さぬきサーモン」といったブランドがテレビなどにも大きく取り上げられている。農業においても特別栽培米である「水主米」やイチゴの「さぬきひめ」、「さぬきアスパラガス」といった野菜が有名である。最近になって地元の農家さんの野菜やお米を購入できる産直ができたが、6次産業化までには至っていないことが多く、商品化することで市民だけでなく、市外・県外の方に対しても東かがわ市をPRできる商品となる。また、東かがわ市は名産は多いものの、「お土産」となる商品は乏しい。そのため『東かがわ市のお土産』として、事業者・行政が連携を取りながら進めていく形にしていく。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	わくわく×暮らしやすい町 ～農業・漁業が儲かり、住民が暮らしやすい町に～	・高価格帯の商品開発を進めたいが需要面が心配 課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像 ・市内飲食店 ・観光施設
②課題	一次産業従事者の減少により、人材不足が深刻化している。その要因として、儲からないということがあげられる。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	一次産業は地域の要であり、少子高齢化していても残していきたい産業である。そのため「儲かる」というイメージがあると、半農半Xといった形でもスタートしやすい。	
④地域資源	農業においては、良質な堆肥が多い(大内堆肥センター牛糞堆肥、鶏糞堆肥)や、もみ殻を排出しているカントリーがある。漁業においては、現在安戸池で牡蠣の養殖を実施している。	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	稲作：特別栽培米に高付加価値をつけるまたは慣行の水稻を減農薬・減化学肥料などで付加価値を付けていく 牡蠣：サービスエリアや産直などで手軽に購入できる商品にする	
⑥担い手 (Who)	農業従事者の皆さん (水主の農業を考える会、大内アグリビジネスの会など)	
⑦事業で生じる循環	商品を創出することにより、農業・漁業従事者が儲かり、市内の方々にも購入していただき、食べてもらうことができる。食や、カブトムシをきっかけとした交流人口が増える。	
⑧事業で生じる成果	商品が流通することで、所得の向上に貢献できる。 また、次世代の育成や新規就農といった方へのPRにもなる。	

事業名称 2：共創型のふるさと納税を活用しよう

あらすじ

事業 1 で作った商品や新たに開発した商品を「ストーリーのあるふるさと納税」の商品づくりをする。そして、ふるさと納税サイトを活用して広く知ってもらい、購入の機会とする。

ストーリー

近年、東かがわ市のふるさと納税額は増えており、東かがわ市長のトップセールスなどで東かがわ市が注目されることが多くなった。本事業では、大手サイトのふるさと納税への掲載ではなく、新たにストーリー制を重視した「共創型のふるさと納税」の市場を新たに参入したいと考えている。現在、多くの商品が「安さ」や「手軽さ」だけでなく、商品の背景にあるストーリーも含めた展開が重要視される傾向にある。今回新たに開発した商品に対してもストーリー作りや発信方法など考えて、売上に貢献していきたい。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	わくわく×暮らしやすい町 ～農業・漁業が儲かり、住民が暮らしやすい町に～	・ふるさと納税への商品の出し方、ストーリー作り

②課題	一次産業従事者の減少により、人材不足が深刻化している。 その要因として、儲からないということがあげられる。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	仕事がない、儲からない、といった印象がIターンやJターンの足かせになっているため、商品売ることで改善したい。また、市外へのPRを進めていく。	
④地域資源	環境配慮型産品や水産物など	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	地域の独自性やストーリーを活かした商品開発作りを行い、ふるさと納税へ出品する。	
⑥担い手 (Who)	商品の出品者、商品開発者、サポートする人	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	商品をふるさと納税を通して市内・県外の人に知ってもらい、食べてもらうことで、今まで以上に事業に誇りをもって取り組むことができる。次世代育成につながる。	ふるさと納税サイト
⑧事業で生じる成果	ふるさと納税が増えることで、東かがわ市の税制が潤う。 市民に還元されるだけでなく、地産地消の商品も増える。	

事業名称 3 : カブトムシ品評会		
あらすじ		
子どもたちを中心に、市内・県外問わずに育てたカブトムシをみんなに見てもらおう「カブトムシ品評会」を開催する。カブトムシは、ヤマトカブトムシに限定して同時にマルシェを開催するなど観光コンテンツにもなるような品評会とする。		
ストーリー		
夏に「カブトムシを触ろう」といったイベントを開催したが、想像以上に多くの方にご来場いただいた。田舎に住んでいながら「初めてカブトムシを見た」「初めてさわった」という方が多く、自然との距離が離れていることに気づいた。イベント開催後に、「カブトムシを育てたい」という一部の子どもたちにプレゼントして、各家庭で育てることとなった。このような様子を見て「育てたカブトムシをみんなに見てもらおう」ことを趣旨とした『カブトムシ品評会』を開催する。 東かがわ市には「日本オランダ獅子頭愛好会」があり、年に1回全国から人が集まって品評会を開催している。その仕組みにヒントをもらい、同様の品評会が開催できないかと考えている。また、品評会と同時にマルシェを開催したり、観光コンテンツとして充実できるのではないかと検討している。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	わくわく×子ども ～自然と触れ合い、好奇心旺盛な子育て～	・カブトムシを確保する方法 ・品評会の基準設定
②課題	田舎にいながら、自然に触れあう子育てが少ない印象。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	子どもたちへの自然を身近に感じる機会の提供。市内の子どもたちの交流の機会。 観光コンテンツとして検討したい。	
④地域資源	里山、カブトムシ	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	「育てたカブトムシを見てもらう」という『カブトムシ品評会』を開催する。 同時にマルシェなども行い、お祭りとしての地域の流れを作る。	
⑥担い手 (Who)	当団体	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	カブトムシから始まる地域循環や自然についての興味関心を高める	・市長 ・教育長 ・商工会/JC
⑧事業で生じる成果	自然学習への興味関心だけでなく、市外・県外からの参加者も増えることで観光コンテンツとしての醸成を検討したい。	